

資料 2 - 1

平成 19 年度 第 1 回 ExTEND2005 作用・影響評価検討部会
議事要旨（案）

日時：平成 19 年 11 月 6 日（金） 14:00～16:00

場所：経済産業省別館 1038 号室

出席者（敬称略）：

委員：遠山千春（座長）、斎藤昇二、菅谷芳雄、白石寛明、藤井一則

欠席委員：原 彰彦

参考人：青山博昭、井口泰泉、江藤千純、鑪迫典久、戸笈 修

事務局：木村環境安全課長他

議題：

- 1．ExTEND2005 における魚類試験法開発について
- 2．ExTEND2005 における両生類試験法開発について
- 3．ExTEND2005 における無脊椎動物試験法開発について
- 4．米国 EPA における動向の報告
- 5．ExTEND2005 における詳細調査の検討について
- 6．その他

議事要旨

（1）魚類試験法開発について進捗状況が報告された。

【委員からの主なご意見】

- ・肝臓中ピテロジェニン濃度の変化、二次性徴の形態学的変化、パーシャルライフサイクルやフルライフサイクルでの受精率あるいは産卵数の変化等の化学物質の内分泌かく乱作用の評価指標としての有効性については、性転換など予め組み込まれた変化と化学物質の内分泌かく乱作用による悪影響との見極めが重要になるのではないかと。
- ・化学物質の内分泌かく乱作用による悪影響を明確に定義していく展開を基盤的研究として実施することも検討願いたい。

（2）両生類試験法開発について進捗状況が報告された。

【委員からの主なご意見】

- ・変態アッセイということであれば、変態に影響が出る濃度以下またはその周辺で遺伝子に変化があるかどうかを見るのが妥当ではないかと。
- ・まず一旦まとめてテストガイドライン化してはどうか。
- ・OECD へ提出する段階で試験個体数を少なくする工夫も併せて示すとよいのではないかと。

- ・ニシツメガエルと国内に生息するカエルとの試験結果をリンクさせるデータ取得が必要ではないか。
- (3) 無脊椎動物試験法開発について進捗状況が報告された。
- 【委員からの主なご意見】
- ・最終的に悪影響であるか適応可能な影響であるのかについて、他の系統のミジンコや他の甲殻類への影響も加味しつつ、本スクリーニング (EnhancedTG211) の位置付けについて検討を継続願いたい。
- (4) 米国 EPA の動向として、73 物質の初期リスト (平成 19 年 6 月 18 日公表) 等の作成・公表状況が報告された。
- (5) 詳細調査の検討として、環境中で検出され、化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告が得られた 15 物質の選定方法が報告され、今後、専門家によるそれらの報告の信頼性評価を実施し、試験対象物質とするか否かの検討を行うこととした。

以上